

第6章 問題6-1

【問1】④：2,000

〈資料4〉商品600 + 原材料100 + 製品1,000 + 貯蔵品50 + 仕掛品250 = 棚卸資産2,000

* 棚卸資産は以下のものから構成される。

① 商品 ② 製品 ③ 仕掛品 ④ 貯蔵品 ⑤ 原材料

【問2】⑤：3,000

流動資産4,200 - 正味運転資本1,200 〈資料4〉 = 流動負債3,000

* 正味運転資本 = 流動資産 - 流動負債

【問3】②：1,100

〈資料1〉

	A社
株主資本	
資本金	1,500
資本剰余金	500
利益剰余金	1,100 ← 差額
自己株式	△100 ← 〈資料4〉
株主資本合計	3,000

【問4】③：16,000

売上原価12,800 ÷ 売上高売上原価率80% 〈資料4〉 = 売上高16,000

【問5】③：△600

フリー・キャッシュ・フロー500 〈資料4〉 - 営業活動によるキャッシュ・フロー1,100
= 投資活動によるキャッシュ・フロー△600

* フリー・キャッシュ・フロー

= 営業活動によるキャッシュ・フロー + 投資活動によるキャッシュ・フロー

【問6】①：(ア) 70 (イ) 良い

ア) B社の売上高売上原価率70% = 売上原価6,825 / 売上高9,750 × 100

イ) 売上高売上原価率はB社 (70%) の方がA社 (80% 〈資料4〉) よりも低く、B社の方が良いといえる。

* 売上原価率や販売費及び一般管理費率のような費用項目は、「低い」方が良いといえる点に注意。

【問7】③：1,452

2年後のA社の当期純利益1,452 = 当年度のA社の当期純利益1,200 × 110% × 110%

【問12】④：（ア）誤（イ）誤

ア）B社の1株当たり純資産1,200＝純資産合計2,400 / 発行済株式数2〈資料4〉

* 問題文では1,200「百万円」となっているが正しくは1,200「円」であるため本問は「誤」が正解。（純資産合計2,400百万円を発行済株式数2百万株で割るため、1株当たり純資産の単位は「円」）

イ）株価純資産倍率（PBR）はA社（8.0倍）の方がB社（2.7倍）よりも高い。

* A社のPBR8.0倍＝株価24,000〈資料4〉 / 1株当たり純資産3,000

* A社の1株当たり純資産3,000＝純資産合計3,000 / 発行済株式数1〈資料4〉

* B社のPBR2.7倍＝株価3,250〈資料4〉 / 1株当たり純資産1,200

【問13】①：（ア）高い（イ）高い

ア）従業員1人当たり売上高はA社（13.3）の方がB社（12.2）よりも高い。

* A社の従業員1人当たり売上高13.3＝売上高16,000（問4参照） / 従業員数1,200〈資料4〉

* B社の従業員1人当たり売上高12.2＝売上高9,750 / 従業員数800〈資料4〉

イ）従業員1人当たり売上高が高い方が労働効率が高いため、この指標からみた労働効率はA社の方が高い。